

20世紀初頭、京都における科学と人文学と芸術の邂逅

—スウェン・ヘディンがチベットで描いた絵と 京都帝国大学文科大学に残された遺産



展覧会の会期: 2017年12月5日(火)から12月17日(日)
9時30分～17時 (月曜日は休館)
* 最終日は16時30分まで

入場: 無料

展覧会の会場:

京都大学百周年時計台記念館 1階 企画展示室

住所: 京都市左京区吉田本町

最寄りのバス停: 東一条あるいは百万遍

展覧会の開催にあたって

1908年、世界的な探検家スウェン・ヘディンが、第3回の中央アジア探検を成功裡に終えてスウェーデンに帰国の途上、京都を訪れ、京都帝国大学の学賓として滞在しました。京都帝国大学では、ヘディンによる講演会のほか、関連する資料や文献の展示が行われました。

本展覧会では、1908年の展覧会で陳列された資料(ヘディンの著作や地図、チベットで描いた絵(原画)、チベットに関する漢籍など)のほか、京都で作成されたヘディンの原画の模写、さらに2016年にチベットで撮影された、ヘディンの探検にかかわる風景や事物の写真などを展示します。

この展覧会を通じて、今日なお新鮮で魅力的な輝きをもつヘディンの遺産の一端に触れ、1世紀前のヘディンの京都訪問の学際的な意義ならびに文科大学に残された彼の遺産の大切さを感じていただけることを願っております。

主催: 京都大学大学院文学研究科

後援: スウェーデン大使館(東京)、協力: ヘディン財団